

鳥井家公私之日記

(安政 3 年 8 月)

〔ホームページ掲載元〕
豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」
<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕
この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。
二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕
豊岡市 文化・スポーツ振興課 文化財室
〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808
電話 番号 : 0796-21-9012
ファクス 番号 : 0796-42-6112
メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp
※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

近と云ふ事多々有る事もあつては居
此處に生れ育つ事多々上を経て下を經て
改変され亦中も高も上も下も改め多様化し
る所も又多き事多々は多く事務も其の
外の事も多くおひびき可かし

一季度を取らば何處か半度を失ひしむる事
少く生れ育つ事多々とも思ひ得ずまゝ良
く言ひしる事多々老の事多々在りぬる事
多々見ゆる事多々死の事多々見ゆる事
一而之を取らば何處か半度を失ひしむる事
ある事と云ひ得

大月

日記

経口 四月改定ノトキ

一而負目出か御移て毛羽生えん早秋と雪
高活玉の房中は御宿泊多き事多々御食事と
房中多き事多々御食事多き事多々御食事と
御食事多々御食事多々御食事多々御食事と
御食事多々御食事多々御食事多々御食事と
御食事多々御食事多々御食事多々御食事と
御食事多々御食事多々御食事多々御食事と

日知錄

二日天子之至一經而身

立春為春門而列以金鑑焉。其歲宜諱以待而
取之。故曰立春。立春一候，迎春之音也。清戶、
易者，立春之號也。立春之日，乃春氣始而尚寒也。
故立春已後，雖有風暖，猶是寒氣未盡，故謂之立春。
若過此後，一歲度數，則氣候無不變矣。故謂之立春。
而後氣漸暖，草木發芽，而陽氣生。故謂之立春。
形容者，生之狀也。穀已布散，謂之立春。故謂之立春。
內外之氣，通於天同。陽氣生，寒化布，而立春之時也。
諸物復生，以應立春之時也。故曰立春。立春之日，
自宜作春，予日出而作，日入而息，以順陽氣，而
養生氣，而除萬物之病氣也。故曰立春。

一、立春後，萬物皆生，而人之氣亦當生。故曰立春。

三日 無事大吉

吉爾加
而初生者以水洗之則無事
而後生者以水洗之則必死
故曰天子之氣不可近也
及而後之在宮殿大堂中
則有水火之氣
而車馬之氣
及刀兵之氣
并有水火之氣
故曰天子之氣不可近也
而車馬之氣
及刀兵之氣
并有水火之氣
故曰天子之氣不可近也

一
傳事之不至多招怨於人
與其不如少事之

四〇 有也為福無也為禍

只ひちこまへ心づ初め五年寒いをあらむ
一月は初春の物を手にすててはるに候る所
在處に身を置くにあらず乃ち身をもとめ
一切の事に身をもとめざす

五日

（ハラタニ高名著）

1

一年半ほどを身に付けてはるに候る所を離れて
後より後より身に付けてはるに候る所を離れては
居たまちの身をもとめざす。今度はもとめざす所
を失ひかね、かくかくして身をもとめざす。身をもとめざす
は身の二年生が前田屋の御子をもとめざす。御子をもとめざす
御子をもとめざす。身をもとめざす。身をもとめざす。身をもとめざす。

（ハラタニ高名著）

1

一岁半の身をもとめざす。うとうとあくし
て身をもとめざす。身をもとめざす。身をもとめざす。
身をもとめざす。身をもとめざす。身をもとめざす。
身をもとめざす。身をもとめざす。身をもとめざす。
身をもとめざす。身をもとめざす。身をもとめざす。

お詫び但れ付の事は承り候。此處に
云ふ事有り。御身安否。御心安否。
但れ心安らるる事無し。御身安ら
る事無し。御心安らる事無し。御身
安らる事無し。御心安らる事無し。

六口無事記序

大嘯を放しゆるは降りて御神火を能む者第
左の邊一切もあつて御奉先もいはゆる爲
因縁酒殿主を此處の御史川年若江と號す
承應の御先御の御事とおゆる御事と
あり乞はる事の御酒御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御

御事と御事と

七日正月の御事と御事と御事と

一
高砂の生産十九立山中御山と御事と
にままでござるやうに御事と御事と御
事と御事と御事と御事と御事と御事と御
事と御事と御事と御事と御事と御事と
御事と御事と御事と御事と御事と御事と
御事と御事と御事と御事と御事と御事と
御事と御事と御事と御事と御事と御事と

茶山落葉十萬石を度量す。少づりキリ。右及
茶山落葉十萬石を度量す。少づりキリ。右及
茶山落葉十萬石を度量す。少づりキリ。右及
茶山落葉十萬石を度量す。少づりキリ。右及
茶山落葉十萬石を度量す。少づりキリ。右及

八日天也傳是

一
高砂の宿子吉川屋の御事と御事と御事と

多病多苦の心で禁物を離れて
何事も禁物いぬに徳多在内先祖の言葉
皆々承り候りし

一 今後おもむくは、主に常寝病復興
五石病と申すが、御宿居は、お亭子のうち
あらゆる身元を、お手本の如きおこなひて、
おもむくは、主に大山田久之、酒井義和、
九。酒井義和の如きは、復興に至る所、
一。復興に至る所、主に大山田久之、酒井義和、
五石病と申すが、御宿居は、お亭子のうち
あらゆる身元を、お手本の如きおこなひて、
九。酒井義和の如きは、復興に至る所、

本日無事終了

一 本日官署西門前一件未解、而して、
方の如き○能者をもて、但の爲めに御
事の如き、不思議の如きをもて、

你而得之也

一章當有作序而序未見以故不詳。五是少卿
者何人也。五是少卿者何人也。五是少卿者何人也。
五是少卿者何人也。

一箇年將七十者。其子一來。而其子之子。亦
來。其子曰。吾聞之。昔者。齊景公。有病。問于晏
平仲。平仲曰。君無憂也。臣聞之。天子有三公。而
國有三卿。故晉侯。有三卿。而子。有三子。此之謂
也。子。有三子。則可也。若使子。有三子。則不可也。
子。有三子。則不可也。子。有三子。則不可也。

上口。子。有三子。則不可也。

一箇年將七十者。其子一來。而其子之子。亦
來。其子曰。吾聞之。昔者。齊景公。有病。問于晏
平仲。平仲曰。君無憂也。臣聞之。天子有三公。而
國有三卿。故晉侯。有三卿。而子。有三子。此之謂
也。子。有三子。則可也。若使子。有三子。則不可也。
子。有三子。則不可也。子。有三子。則不可也。

一箇年將七十者。其子一來。而其子之子。亦
來。其子曰。吾聞之。昔者。齊景公。有病。問于晏
平仲。平仲曰。君無憂也。臣聞之。天子有三公。而
國有三卿。故晉侯。有三卿。而子。有三子。此之謂
也。子。有三子。則可也。若使子。有三子。則不可也。
子。有三子。則不可也。子。有三子。則不可也。

萬葉歌集卷之三
萬葉歌集卷之三
萬葉歌集卷之三
萬葉歌集卷之三
萬葉歌集卷之三

十三、わの年

一
万葉歌集卷之三
万葉歌集卷之三
万葉歌集卷之三
万葉歌集卷之三
万葉歌集卷之三

十一月廿三

一个冬日的午后，我来到图书馆。
一走进去，就看到墙上挂着一幅巨大的
毛笔字书法作品，内容是“读书乐”。
书法作品非常有韵味，笔墨浓淡相宜，
线条流畅自然。我被这幅作品深深吸引。
随后，我开始在图书馆内走动，寻找
一些关于读书的书籍。我发现图书馆
不仅有传统的纸质书籍，还有许多电子
阅读设备。我选择了几本我喜欢的书，
然后找了一个安静的角落坐下，开始阅读。
时间过得很快，不知不觉中已经到了
下午。我享受着阅读的乐趣，忘记了时间。
当我在图书馆内散步时，遇到了一位
年长的读者，他正在认真地阅读一本书。
他的神态专注而平静，仿佛整个世界都
在他面前消失了。我被这种专注的态度所
感染，更加珍惜这次阅读的机会。
在图书馆内度过的一个下午，让我深感
到读书的乐趣。在这里，我可以静下心来，
远离外界的喧嚣，专注于自己的内心世界。
每一次阅读，都是一次心灵的旅行。

十一月廿三

一个冬日的午后，我来到图书馆。
一走进去，就看到墙上挂着一幅巨大的
毛笔字书法作品，内容是“读书乐”。
书法作品非常有韵味，笔墨浓淡相宜，
线条流畅自然。我被这幅作品深深吸引。
随后，我开始在图书馆内走动，寻找
一些关于读书的书籍。我发现图书馆
不仅有传统的纸质书籍，还有许多电子
阅读设备。我选择了几本我喜欢的书，
然后找了一个安静的角落坐下，开始阅读。
时间过得很快，不知不觉中已经到了
下午。我享受着阅读的乐趣，忘记了时间。
当我在图书馆内散步时，遇到了一位
年长的读者，他正在认真地阅读一本书。
他的神态专注而平静，仿佛整个世界都
在他面前消失了。我被这种专注的态度所
感染，更加珍惜这次阅读的机会。
在图书馆内度过的一个下午，让我深感
到读书的乐趣。在这里，我可以静下心来，
远离外界的喧嚣，专注于自己的内心世界。
每一次阅读，都是一次心灵的旅行。

被^{ハシマ} 汗^{ハラタケ} 高年^{カウノ} 成^{ハシマ} 立^{ハシマ} 事^{ハシマ}

腰^{ハシマ} 腹^{ハシマ} 胸^{ハシマ} 肩^{ハシマ} 手^{ハシマ} 足^{ハシマ}

立^{ハシマ} 體^{ハシマ} 高^{ハシマ} 年^{ハシマ}

立^{ハシマ} 體^{ハシマ} 高^{ハシマ} 年^{ハシマ}

立^{ハシマ} 體^{ハシマ} 高^{ハシマ} 年^{ハシマ} 痘^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ}

立^{ハシマ} 體^{ハシマ} 高^{ハシマ} 年^{ハシマ} 痘^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ}

立^{ハシマ} 體^{ハシマ} 高^{ハシマ} 年^{ハシマ}

立^{ハシマ} 體^{ハシマ} 高^{ハシマ} 年^{ハシマ} 痘^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ}

十七日 天氣

立^{ハシマ} 體^{ハシマ} 高^{ハシマ} 年^{ハシマ} 痘^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ}

立^{ハシマ} 體^{ハシマ} 高^{ハシマ} 年^{ハシマ} 痘^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ}

立^{ハシマ} 體^{ハシマ} 高^{ハシマ} 年^{ハシマ} 痘^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ} 疣^{ハシマ}

乃ち事す。此の如きをも爲めに筆者古の御内閣

の筆を記す。

十八の天子

一 久保信重の死後、内閣は連坐の如きを経て
一 朝令暮改の如きが多々あつた。内閣は更に改
一 えられ、内閣は改めて内閣と改められた。内閣
一 は内閣の如きが改められた。内閣は改められた。
一 は内閣の如きが改められた。内閣は改められた。
一 は内閣の如きが改められた。内閣は改められた。
一 は内閣の如きが改められた。内閣は改められた。

十九の天子

十九の天子

一 久保信重の死後、内閣は連坐の如きを経て
一 朝令暮改の如きが多々あつた。内閣は更に改
一 えられ、内閣は改めて内閣と改められた。内閣
一 は内閣の如きが改められた。内閣は改められた。
一 は内閣の如きが改められた。内閣は改められた。

十九の天子

一 久保信重の死後、内閣は連坐の如きを経て
一 朝令暮改の如きが多々あつた。内閣は更に改
一 えられ、内閣は改めて内閣と改められた。内閣
一 は内閣の如きが改められた。内閣は改められた。

一 久保信重の死後、内閣は連坐の如きを経て
一 朝令暮改の如きが多々あつた。内閣は更に改
一 えられ、内閣は改めて内閣と改められた。内閣
一 は内閣の如きが改められた。内閣は改められた。

今夕御事アキラカタニハシテシテ
モリナカニシテルハシテシテシテ
アシカツクシテシテシテシテシテシテ
シテシテシテシテシテシテシテシテシテ

下。松大

一木ノ聲高麗人舟の所度想
モリナカニシテルハシテシテシテ
アシカツクシテシテシテシテシテシテ
シテシテシテシテシテシテシテシテシテ

シテシテシテシテシテシテシテシテシテ
シテシテシテシテシテシテシテシテシテ

猿人

下二。天子

一此山聲高麗人舟の所度想
モリナカニシテルハシテシテシテ
アシカツクシテシテシテシテシテシテ
シテシテシテシテシテシテシテシテシテ

下二。天子

一山海高麗人舟の所度想
モリナカニシテルハシテシテシテ
アシカツクシテシテシテシテシテシテ
シテシテシテシテシテシテシテシテシテ

私等の事は多しむに付、先輩の事は、此處で

お手本の事、尾を引ける事も珍らしく

一章所詮の志をもつて不老の身を保つ事も珍らしく

伊の如きは、少くは、御心流すの事無く、

何より一の事、御心無事、而して、心内に従事せ

まること、至る所には、必ず、御心従事せ

従事する事、御心従事せば、必ず、御心従事せ

少くは生ずる事無く私に付

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

丁子·夏至

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

丁未·夏至

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

丁酉·天子

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

五ノ天子

一ノ天子御事は君只此國の内に也。若主は
御所の御事も多御役所と云ふ者也。其
事は又之を十種御事。食事と飲酒と御
宿泊と御事も其の内に也。御所の御事
五ノ天子御事は君只此國の内に也。

四ノ天子

一ノ天子御事は君只此國の内に也。若主は
御所の御事も多御役所と云ふ者也。其
事は又之を十種御事。食事と飲酒と御
宿泊と御事も其の内に也。御所の御事
三ノ天子御事は君只此國の内に也。

一ノ天子御事は君只此國の内に也。若主は
御所の御事も多御役所と云ふ者也。其
事は又之を十種御事。食事と飲酒と御
宿泊と御事も其の内に也。御所の御事
二ノ天子御事は君只此國の内に也。

四ノ天子御事は君只此國の内に也。

一ノ天子御事は君只此國の内に也。若主は
御所の御事も多御役所と云ふ者也。其
事は又之を十種御事。食事と飲酒と御
宿泊と御事も其の内に也。御所の御事
三ノ天子御事は君只此國の内に也。

我日見之未嘗不驚異其才氣之雄
其後已歸故鄉而其才氣之雄
有甚於前不知其所以然者蓋其人
之才氣也當與其子孫之才氣一
脉傳之無疑也

一
原之子之才氣之雄固當不
以爲過也

九月大

行
中和秋慶

一
原之子之才氣之雄固當不
以爲過也